

みんなでつなぐ報徳の学び 「南小学校児童による報徳学習（菜種油の搾油体験）」

生涯学習課

二宮尊徳にゆかりのある17市町村が集まる「第30回全国報徳サミット秦野市大会」を令和7年11月1日（土）にメタックス体育館はだので開催します。これを記念し、ふるさと秦野への誇りと愛着を持った子どもを育む秦野の特色ある教育活動「秦野ふるさと科」の一環として、6月24日（火）2・3校時目（午前9時35分から11時30分）に、南小学校3年生児童154名が菜種から油を搾る体験学習を行いました。

二宮尊徳は、知人から分けてもらったひとつかみの菜種を荒地に蒔いて、その翌年には多くの菜種を収穫しました。尊徳は、その菜種を油と交換し、行灯の油として使い、勉強したと言われていています。

今回の体験学習では、南地区の地域活性化を推進する「南はだの村七福神と鶴亀めぐりの会」の皆さんが、種蒔きの時から真心を込め育てられ、収穫された菜種を使用しました。

体験学習の前に児童たちは、「南はだの村七福神と鶴亀めぐりの会」の皆さんから二宮尊徳と菜種油の関係性をはじめ、菜種の成長過程や「秦野たばこの祖」と言われた草山貞胤が報徳仕法に基づき、秦野葉たばこを全国に広め、秦野市を発展させたことなど学習しました。

体験学習では、児童たちがクラスごとに分かれ、菜種と菜種の殻に分ける作業を体験し、実際に搾油した油に火が点くところを見学しました。

体験学習後、児童たちからは、「普段使っている油を菜種から採る作業は大変だったけど楽しかった。」「昔の人は油を使って明かりを灯していたことを初めて知った。」など、様々な感想がありました。

【講話】



1 報徳仕法に関する講話。



2 菜種の成長過程に関する講話。

【菜種油の搾油体験】



1 菜種と殻を分けます。



2 分けた菜種から油を絞ります。



3 搾った油にマッチで火を点けます。



4 火が点き、子どもたちは興味津々でした。